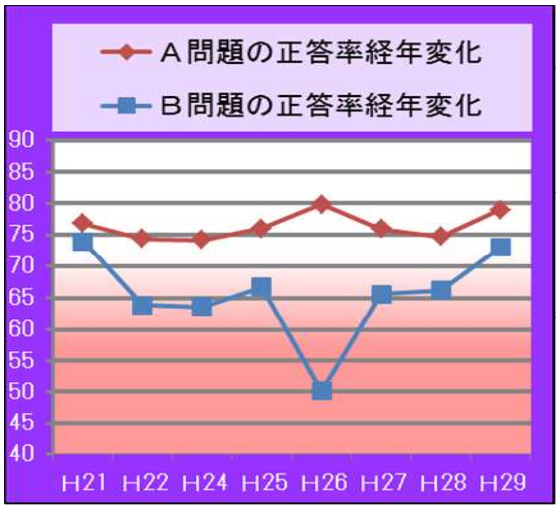
平成２９年度　全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

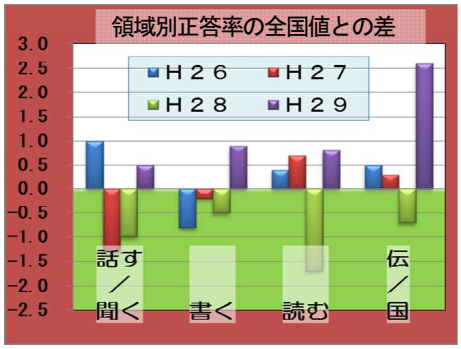
１　結果のポイント



中学校：国語Ａ	平均正答率（%）		
領域	大分県	全国	差
国語Ａ全体	79	77.4	…
話すこと・聞くこと	75.9	75.4	0.5
書くこと	86.6	85.7	0.9
読むこと	74.6	73.8	0.8
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.8	77.2	2.6

中学校：国語Ｂ	平均正答率（%）		
領域	大分県	全国	差
国語Ｂ全体	73	72.2	…
話すこと・聞くこと	72.3	72.4	-0.1
書くこと	60.8	60.8	0.0
読むこと	73.1	72.1	1.0
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	42.1	41.4	0.7

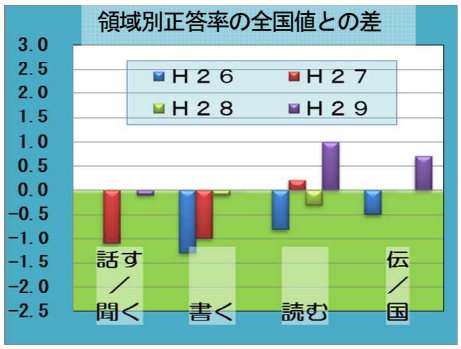
中学校：国語Ａ



全問題数：33 問（選択式 22 問・短答式 10 問・記述式 0 問）

- 県平均正答率 79%（選択式 79.9%・短答式 77.7%）で、平成 28 年度に比べ上昇し、全国平均正答率を上回った。
- すべての領域において、県平均正答率が全国値をそれぞれ 0.5～2.0 ポイントの幅で上回っている。
- 平均正答率が 7 割に満たない設問が 6 問あり、引き続き授業での取組が望まれる。

中学校：国語Ｂ



全問題数：9 問（選択式 5 問・短答式 1 問・記述式 3 問）

- 県平均正答率 73%で、平成 28 年度に比べ上昇し、全国平均正答率を上回った。しかし、「話すこと・聞くこと」の領域で全国値を 0.1 ポイント下回った。
- 記述式の 3 問中、平均正答率については、2 問で全国値を上回ったがいずれも正答率が 70%を下回った。無解答率についてはいずれも全国値以上で、記述することにおける指導の改善が望まれる。

中学校：その他

- 国語Ａ・Ｂともに正答率が全国値を上回るのは調査開始以来初である。また、生徒質問紙（(68)～(78)）の経年推移を見ると、国語科の授業改善を示す項目が多数見られる。中学校国語科教員による授業改善が着実に進んでいるということが言える。
- 国語Ａ・Ｂとも正答率が全国平均値以上の生徒は 54.0%（前年度 50.2%）国語Ａ・Ｂとも平均未満の生徒は 27.0%（前年度 28.5%）で中間層以上の生徒の増加が見られた。
- 正答率が 40%未満の生徒は国語Ａにおいて 4.4%（前年度 4.1%）、Ｂにおいて 12.4%（前年度 16.7%）で、概ね満足できる状況に引き上げるための指導の充実が望まれる。

2　課題が見られた問題と指導改善のポイント

中学校：国語Ａ

（1）話すこと・聞くこと

①先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す＜指導事項・話すこと・聞くこと１年ウ＞

A⑦一（正答率 53.5％・全国 54.0％）

・相手に分かりやすいように語句を選択して話すことができるかどうかをみる設問である。

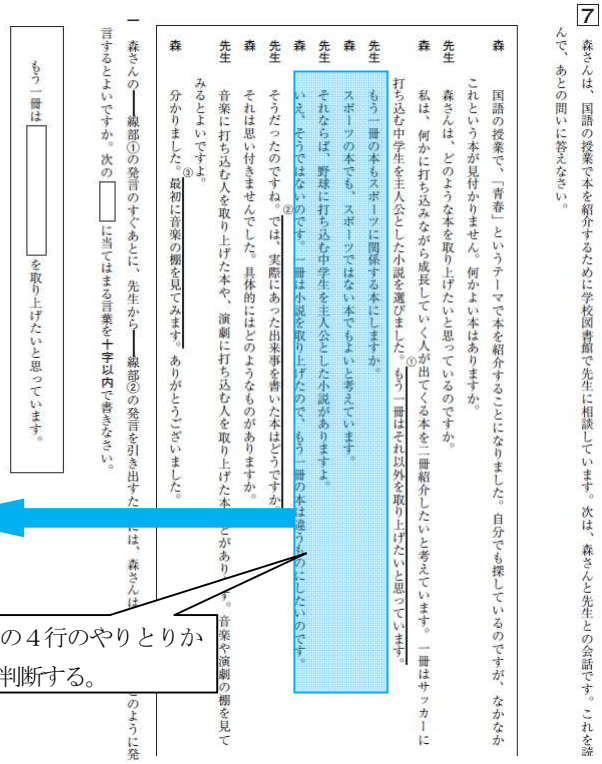
・森さんは一線部①の前に「サッカーに打ち込む中学生を主人公とした小説」と述べている。「それ以外」がどの部分を指すのか、後の４行にある２人のやりとりから判断する。最初の会話の中でスポーツ関係の本であることを否定しておらず、さらに２行の会話からは、「小説とは違うもの」にしようとしていることが分かる。

	小説	小説以外 ただしジャンルははっきりしていない
サッカー	×	○
野球	×	○
スポーツ以外	×	○

と表にまとめることができる。

ゆえに正答は「小説以外の本」となる。

・指導に当たっては目的や内容を明確にした上で，相手に分かりやすく伝わるように語句を選んで話すようにする必要がある。



7　森さんは、国語の授業で本を紹介することになりました。自分でも探しているのですが、なかなかんで、あとの問いに答えなさい。

森　国語の授業で、「青春」というテーマで本を紹介することになりました。自分でも探しているのですが、なかなか
　これという本が見付かりません。何かよい本はありますか。
先生　森さんは、どのような本を取り上げたいと思っているのですか。
森　私は、何かに打ち込みながら成長していく人が出てくる本を二冊紹介したいと考えています。一冊はサッカーに打ち込む中学生を主人公とした小説を選びました。①もう一冊はそれ以外を取り上げたいと思っています。
先生　もう一冊の本もスポーツに関係する本にしますか。
森　スポーツの本でも、スポーツではない本でもよいと考えています。
先生　それならば、野球に打ち込む中学生を主人公とした小説がありますよ。
森　いえ、そうではないのです。一冊は小説を取り上げたので、もう一冊の本は違うものにしたいのです。
先生　そうだったのですね。②では、実際にあった出来事を書いた本はどうですか。
森　それは思い付きませんでした。具体的にはどのようなものがありますか。
先生　音楽に打ち込む人を取り上げた本や、演劇に打ち込む人を取り上げた本などがあります。音楽や演劇の棚を見てみるとよいですよ。
森　分かりました。③最初に音楽の棚を見てみます。ありがとうございました。

一　森さんの一線部①の発言のすぐあとに、先生から一線部②の発言を引き出すためには、森さんは　のように発言するとよいですか。次の□に当てはまる言葉を十字以内で書きなさい。

もう一冊は□を取り上げたいと思っています。

この４行のやりとりから判断する。

【参照】「平成 29 年度全国学力・学習状況調査報告書」46～48 ページ

（2）読むこと

①文中の語句の意味として適切なものを選択する＜指導事項・読むこと１年ウ＞

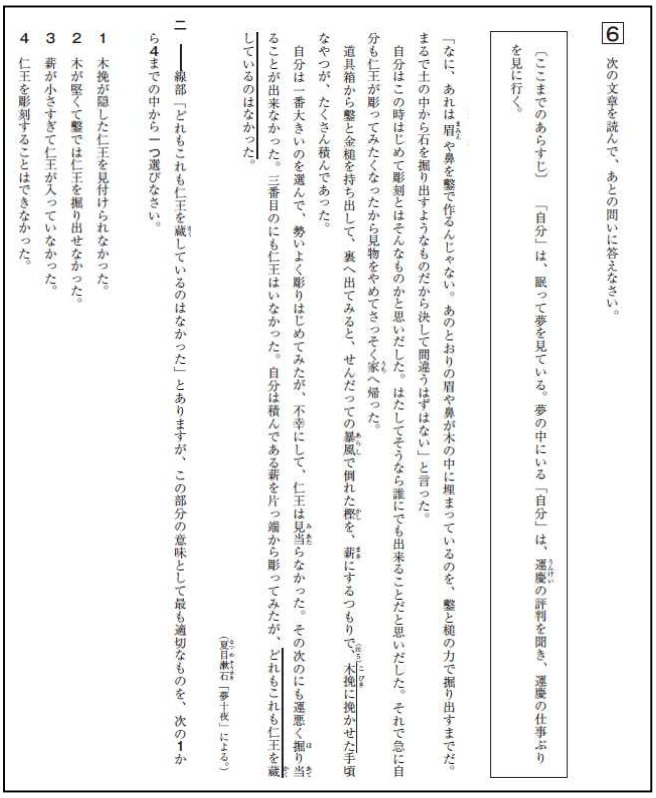
A⑥二（正答率 61.3％・全国 60.1％）

・場面の展開や登場人物の描写に注意して読み，内容を理解する問い。

・「仁王を蔵している」という表現の意味を，「仁王を隠している」と捉えたり，「仁王は見当らなかった」や「三番目のにも仁王はいなかった。」などの部分的な表現を基にして「仁王を見付けられなかった」と捉えたためと想定できる。

・文脈に即して語句の意味を的確に捉えながら読むように指導する必要がある。その際，その語句の一般的な意味を踏まえ，文脈の中における，具体的，個別的な意味を捉えるように指導することが大切である。

【参照】「平成 29 年度全国学力・学習状況調査報



6　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔ここまでのあらすじ〕　「自分」は、眠って夢を見ている。夢の中にいる「自分」は、運慶の評判を聞き、運慶の仕事ぶりを見に行く。

「なに、あれは眉や鼻を鑿で作るんじゃない。あのとおりの眉や鼻が木の中に埋まっているのを、鑿と槌の力で掘り出すまでだ。まるで土の中から石を掘り出すようなものだから決して間違うはずはない」と言った。

自分はこの時はじめて彫刻とはそんなものかと思いだした。はたしてそうなら誰にでも出来ることだと思いだした。それで急に自分も仁王が彫ってみたくなったから見物をやめてさっそく家へ帰った。

道具箱から鑿と金槌を持ち出して、裏へ出てみると、せんだっての暴風で倒れた樫を、薪にするつもりで、木挽に挽かせた手頃なやつが、たくさん積んであった。

自分は一番大きいのを選んで、勢いよく彫りはじめてみたが、不幸にして、仁王は見当らなかった。その次のにも運悪く掘り当ることが出来なかった。三番目のにも仁王はいなかった。自分は積んである薪を片っ端から彫ってみたが、どれもこれも仁王を蔵しているのはなかった。

（夏目漱石「夢十夜」による）

二　一線部「どれもこれも仁王を蔵しているのはなかった」とありますが、この部分の意味として最も適切なものを、次の１から４までの中から一つ選びなさい。

1　木挽が隠した仁王を見付けられなかった。
2　木が堅くて鑿では仁王を掘り出せなかった。
3　薪が小さすぎて仁王が入っていなかった。
4　仁王を彫刻することはできなかった。

告書」41～45 ページ

（3）伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項

①適切な語句を選択する＜指導事項・伝・国１年（1）イ（ウ）＞

A⑨三イ　よい結果を早く出したいときには□といわれるようにかえって慎重に議論を進めるべきだ　。

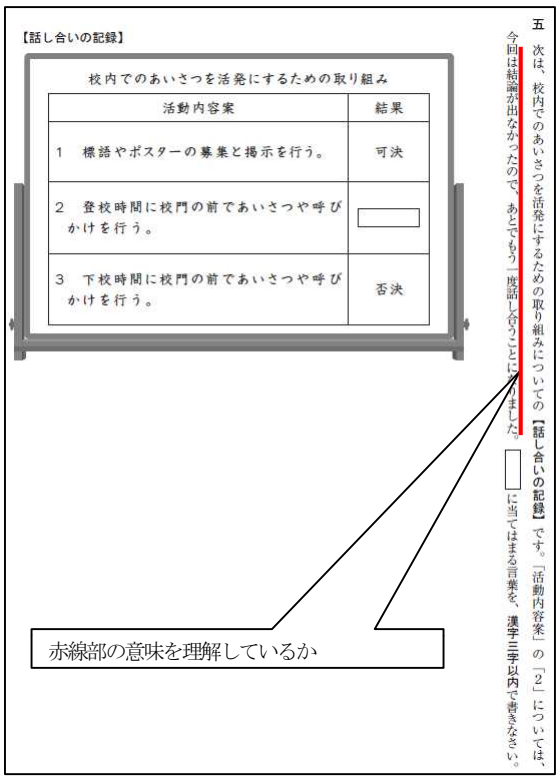
1	一事が万事	16.8%
2	論より証拠	13.8%
3	急がば回れ	61.7%
4	光陰矢のごとし	7.0%

・語句の意味を理解し，文脈の中で適切に使うことを問う問題である。
・ことわざに慣れておらず、意味を理解していないためと想定できる。
・各教科等の学習や読書活動をする中で出合った言葉を取り上げ，それぞれの意味を確認するとともに，具体的な使用例を考えるなどの学習活動が有効である。その際，語源などを確かめたり，似た意味や反対の意味の言葉を整理したりするように指導することも効果的である。また，教師が意識的にことわざや慣用句などを用いて話したり，掲示物や配付物に取り入れたりするなど，言語環境を整えることも大切である。
・また、例示されている熟語以外で、その意味を使った熟語はないのか、など派生的な指導も考えられる。いずれにせよ、辞書等を使用させながら、意図的に熟語の意味に触れる機会を中学校段階でも持つことが必要である。
・参考として
平成 21 年度授業アイディア例「語句の意味を理解し，文脈の中で適切に使うことができるようにする。」
平成 24 年度授業アイディア例「語句の意味を理解し，文脈の中で適切に使うことができるようにする。」，
平成 26 年度授業アイディア例「言葉を集め，言葉カレンダーを作ろう」も
などを基に、単元を創り上げることも考えられる。

②話合いの記録として適切な言葉を考える＜指導事項・伝・国１年（1）イ（ウ）＞

A⑨五　（正答率 37.5%・全国 35.8%）

・事象や行為などを表す多様な語句について理解する力を見る設問。
・本設問のように学校生活の中での話合いなど具体的な場面を取り上げ，その場の状況に応じた適切な言葉について考えたり，調べたりするなどの学習活動は有効である。
・語句の理解の指導は、言語活動の中でしっかりと理解させることはもちろん重要であるが、何度も繰り返し、使用していく中で定着していくものである。ゆえに、国語科に限らず全教科で指導すること、特に国語科においては、取り立て指導が有効であることも十分に留意しながら指導をする必要がある。

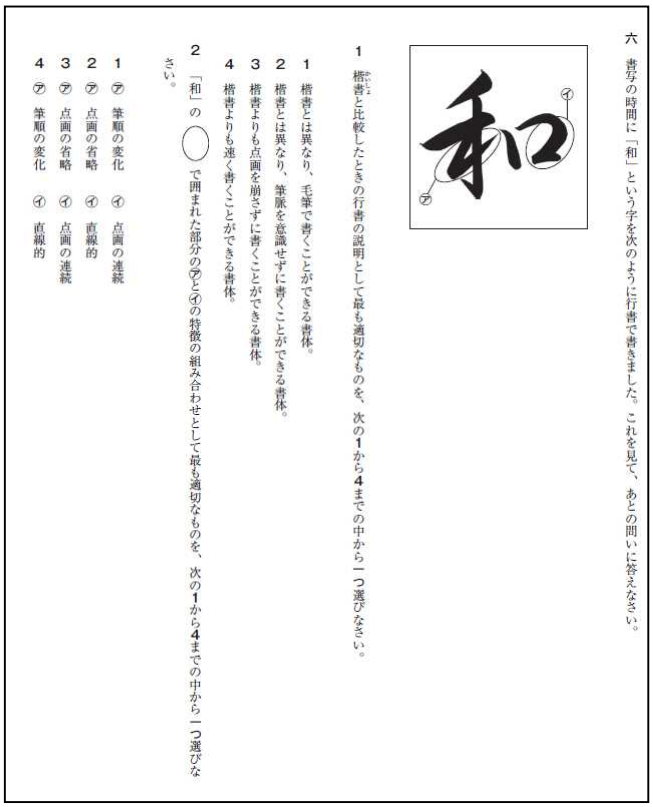


⑤楷書と比較したときの行書の説明として適切なものを選択する

行書で書かれた「和」の特徴の組合せとして適切なものを選択する　＜指導事項・伝・国１年（2）イ＞

A⑨六　（正答率 63.0％・全国 49.6％/
正答率 65.7％・全国 63.7％）

・楷書と行書との違いを理解しているかどうか、また、行書の特徴を理解しているかどうかをみる設問。
・書写の指導では，楷書と行書のそれぞれの特徴について理解することができるように指導する必要がある。
・その際，硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い，毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすることに留意する必要がある。
・また、毛筆を使用した書写の学習では，行書における字形の整え方，運筆の際の筆圧のかけ方，点画のつながりなどを身に付けさせる必要がある。
・【A】と【B】と比較すると「想」という字の字形を整えたり、用紙の大きさと文字のバランスに注意していることが分かる。
・この傾向の設問については、公立高校の入学者選抜でも出題されるので、授業改善の視点の一つとして留意する必要がある。


六　書写の時間に「和」という字を次のように行書で書きました。これを見て、あとの問いに答えなさい。

1　楷書と比較したときの行書の説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1　楷書とは異なり、毛筆で書くことができる書体。
2　楷書とは異なり、筆脈を意識せずに書くことができる書体。
3　楷書よりも点画を崩さずに書くことができる書体。
4　楷書よりも速く書くことができる書体。

2　「和」の◯で囲まれた部分の㋐と㋑の特徴の組み合わせとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1　㋐　筆順の変化　㋑　点画の連続
2　㋐　点画の省略　㋑　直線的
3　㋐　点画の省略　㋑　点画の連続
4　㋐　筆順の変化　㋑　直線的

【参照】「平成 29 年度全国学力・学習状況調査報告書」54～64 ページ

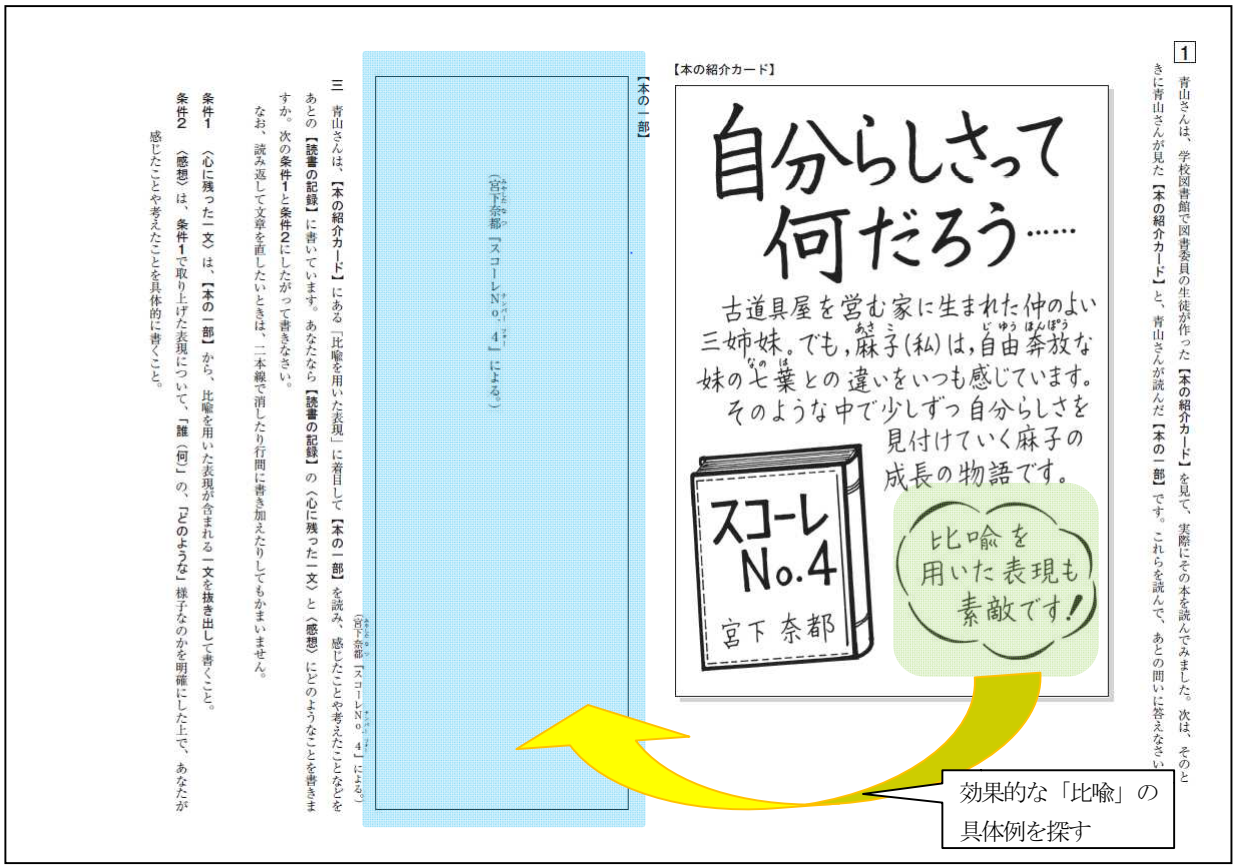
中学校：国語Ｂ

（1）書くこと・読むこと

①本の紹介カードに書かれている「比喩を用いた表現」という語句に着目し、感じたことや考えたことを書く。

＜指導事項・書くこと１年ウ＞　＜指導事項・読むこと１年エ＞

Ｂ１三（正答率 42.1%・全国 41.4%）



1

青山さんは、学校図書館で図書委員の生徒が作った【本の紹介カード】を見て、実際にその本を読んでみました。次は、そのときに青山さんが見た【本の紹介カード】と、青山さんが読んだ【本の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【本の紹介カード】

自分らしさって何だろう……

古道具屋を営む家に生まれた仲のよい三姉妹。でも，麻子(私)は，自由奔放な妹の七葉との違いをいつも感じています。そのような中で少しずつ自分らしさを見付けていく麻子の成長の物語です。

スコーレ No.4
宮下奈都

比喩を用いた表現も素敵です！

【本の一部】

（宮下奈都『スコーレNo.4』による。）

三　青山さんは、【本の紹介カード】にある「比喩を用いた表現」に着目して【本の一部】を読み、感じたことや考えたことなどをあとの【読書の記録】に書いています。あなたなら【読書の記録】の〈心に残った一文〉と〈感想〉にどのようなことを書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1　〈心に残った一文〉は、【本の一部】から、比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書くこと。

条件2　〈感想〉は、条件1で取り上げた表現について、「誰（何）」の、「どのような」様子なのかを明確にした上で、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

効果的な「比喩」の具体例を探す

・表現の仕方について捉え，自分の考えを書くことができるかどうかをみる設問。

・正答の条件としては、

① 〈心に残った一文〉に，【本の一部】から比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書いている。

② 〈感想〉に，①で取り上げた表現について，「誰（何）」の，「どのような」様子なのかを明確にして書いている。

③ 〈感想〉に，①で取り上げた表現について，感じたことや考えたことを具体的に書いている。

の３つとなる。

・正答例は

・〈心に残った一文〉中から，柳の葉の流れるような文様が息をのむほど美しい五寸皿が出てきた。

〈感想〉「柳の葉の流れるような文様」という表現は，五寸皿の文様が柔らかな曲線で描かれていることを表している。柳の葉のしなやかさをイメージすることができる。

となる。

・誤答として

【誤答例１】〈心に残った一文〉の「誰」の，「どのような」様子なのかを書いていない（反応率 7.7%）

・〈心に残った一文〉美しく冷たい皿が，命をよみがえらせていくさまを，七葉の後ろから息を詰めたまま見つめていた。

〈感想〉「美しく冷たい皿が，命をよみがえらせていくさま」というのがどのような様子なのか見てみたいと思った。

【誤答例２】〈心に残った一文〉に，比喩を用いた一文を抜き出していない（反応率 8.4%）

・〈心に残った一文〉どうして，いつから，七葉は来なくなったんだろう。
〈感想〉七葉が店に来なくなったことを残念に思っている麻子の思いを表していて，麻子の悩んでいる様子がよく分かった。

等、条件に沿って適切に書けていないため、正答となっていない生徒が多数いた。

・文学的な文章を読んで，感じたことや考えたことなどについて交流することは，自分のものの見方や考え方を広げたり，読書の楽しさを味わったりする上で重要である。
・印象に残った場面や描写を取り上げ，なぜその場面や描写が印象に残ったのかを具体的に説明する学習活動が有効である。
・新聞やインターネットの書評，本のポップなどを取り上げ，そこに書かれたものの見方や考え方と自分のものの見方や考え方とを対比させて新しい考え方を知ったり，自分の考えを再構築したりする学習活動も効果的である。
・「平成 24 年度【中学校】報告書」P.137
「平成 25 年度【中学校】授業アイディア例」P.11～P.12
「平成 26 年度【中学校】授業アイディア例」P.13～P.14
「言語活動事例集【中学校版】」P.45～P.46，P.47～P.48

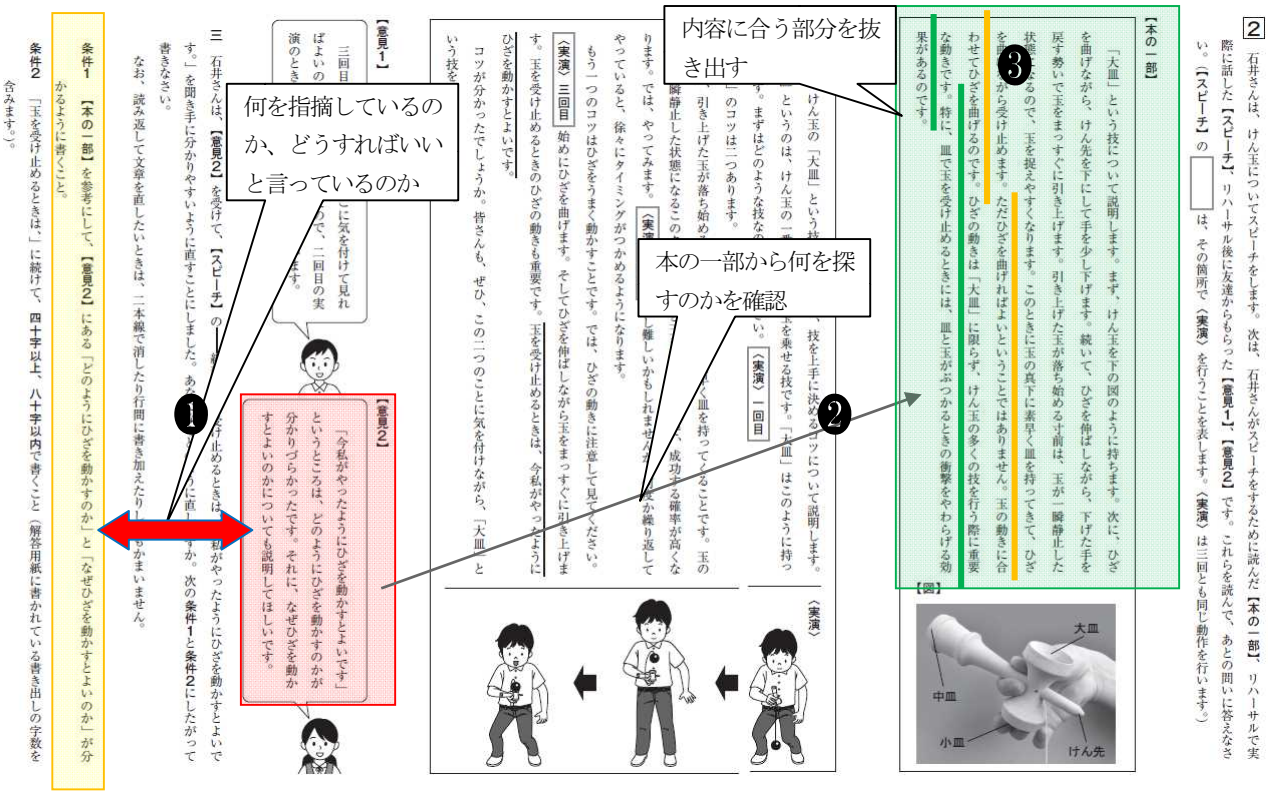
等を参考にして、単元を構築することも重要である。

【参照】「平成 29 年度全国学力・学習状況調査報告書」71～75 ページ

（2）話すこと・聞くこと／書くこと

①スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す

＜指導事項・書くこと１年イ＞　＜指導事項・読むこと２年ウ＞B 2 三（正答率 57.0%・全国 57.6%）



・相手の反応を踏まえながら，事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す力を見る設問。
・正答の条件は、
① 【本の一部】を参考にして，「どのようにひざを動かすのか」が分かるように書いている。
② 【本の一部】を参考にして，「なぜひざを動かすとよいのか」が分かるように書いている。
③ 「玉を受け止めるときは，」に続けて，四十字以上，八十字以内で書いている。

・解答に際しては、
❶【意見２】の中の指摘事項（アドバイス）は何かを把握する。←「条件１」が大きなヒントになる。
→── 線部を書き直すので、【意見２】から「ひざ」の動かし方についての指摘事項を確認する。
❷「どのようにひざを動かすのか」とその理由を付け加える必要がある。
→それを【本の一部】から探す。
❸ひざの動きの説明　→玉の動きに合わせてひざを曲げる
なぜひざを動かすか→皿と玉がぶつかるときの衝撃をやわらげる効果がある
これらを適切に用い、条件に沿うように字数等を合わせて記述する。
・誤答例としては
❶【本の一部】を参考にして，「なぜひざを動かすとよいのか」が分かるように書くことができていない。
❷「なぜひざを動かすとよいのか」を書くことができていない
❸，「どのようにひざを動かすのか」と「なぜひざを動かすとよいのか」が分かるように書くことができていない
もの等が考えられる。
・指導に当たっては、交流を通して振り返り，より分かりやすい内容や表現の仕方について考えることなどが想定される。
・実際にスピーチなどをする様子を機器を用いて録画・録音し，伝えたい内容が正確に伝わっているか，聞き手に分かりやすい言葉になっているかなどについて振り返り，話し手と聞き手の両方の立場から検討するなどの学習活動が有効である。
・「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語「『体験入部』の報告をしよう」も参考になる。

【参照】「平成 29 年度全国学力・学習状況調査報告書」75～80 ページ

３　指導の改善のポイント（全体を通して）

（１）これからの国語科の授業づくりの基本的な考え方

①主体的・対話的で深い学びを促すために、以下の８点について留意し、単元構想と授業実践を行うことが大切である。

❶生徒が興味をもつ教材・題材
❷魅力的な課題の提示、児童生徒による課題の発見
❸学習の見通し、本時の目標（めあて）の明示
❹課題解決的な学習、既習事項を活用する学習
❺自分の考えを発表・交流する機会
❻「できた」「わかった」の実感
❼「できたこと」「わかったこと」の振り返り
❽日常生活、社会生活への広がり

②国語科は、生徒に付けたい力を付けるために、言語活動を単元全体で取り扱い、言語活動を通して指導事項を指導する教科である。学習指導要領改訂後も、国語科で育成した言語能力は、他教科の基幹になることは言うまでもなく、今後とも更なる言語活動の充実を図り、不断の授業改善を推進していくという方針は不変である。

※昨年度も記載したが、伝統的な言語文化や国語の特質に関する事項（漢字、語句、文法等）を学ばせる際、取り立て指導や帯単元を設定し指導することは有効な手段である。

種別	番号	質問事項	Ｈ２８	Ｈ２９
学校質問紙	６９	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	99.1%	97.6%

であった。その取組を有効にするためには、①生徒の学習における課題の検証、②それを基にした指

導のコンテンツの選択、③指導事項の定着のための手段の構築とその継続が求められる。
※基礎基本の積み上げだけでは活用する力は向上しないことは言うまでもない。

③中学校国語科においては、以下のような問題点が一部実践において見られる。

（A）主に言語活動に関すること

(a)付けたい力を付けるのに適切な言語活動と言えないものがある。

▼付けたい力と言語活動との領域のミスマッチが見られる単元

▼主たる学習活動の設定時間数の不足した単元

※共通教材で課題解決の練習をしたあとの個別の課題解決の時間が明らかに不足している単元が見られる。

▼言語活動の設定はあるが、課題解決のための手法が適切でない単元

※教員が本来行うべき指導や支援をせずに、ペア学習やグループ学習を行うことのみで、課題解決を図ろうとする授業が多い。

(b)教材の特性や活動の必然性を考慮しない言語活動がある。

▼意図のない、場面ごとの詳細な読解の実施

▼生徒自身に気付かせることと教師が教えるべきことの整理がないままの指導

（B）主に評価に関すること

(a)付けたい力と言語活動との領域のミスマッチのため、評価規準が適正と言えない。

(b)本時の評価規準が具体的でない。

▼評価の場面は１時間で１、２箇所が妥当であるが、そうなっていない時間

▼評価規準、評価の方法や場面が、具体的でない。

▼単元の評価規準→指導過程（指導計画）の評価規準→本時の評価規準という流れの中で、それらの不整合が顕在する単元。

(c)「C努力を要する状況」の生徒の見取りができにくい。

▼見取りができにくいため、その子どもたちに対する指導・支援が未設定

④これらの解決のための基礎作業として、教育課程編成時に、

❶マトリクス型の年間指導計画を作成し教材と指導事項を確認すること

❷学習指導要領の言語活動例の確認すること

の２点は、必ず行うべきものである（❶は年度内に随時見直しを行うことも重要）。

⑤また、望ましい言語活動や具体的に付けるべき力をイメージするために、

〇全国学力・学習状況調査の調査問題

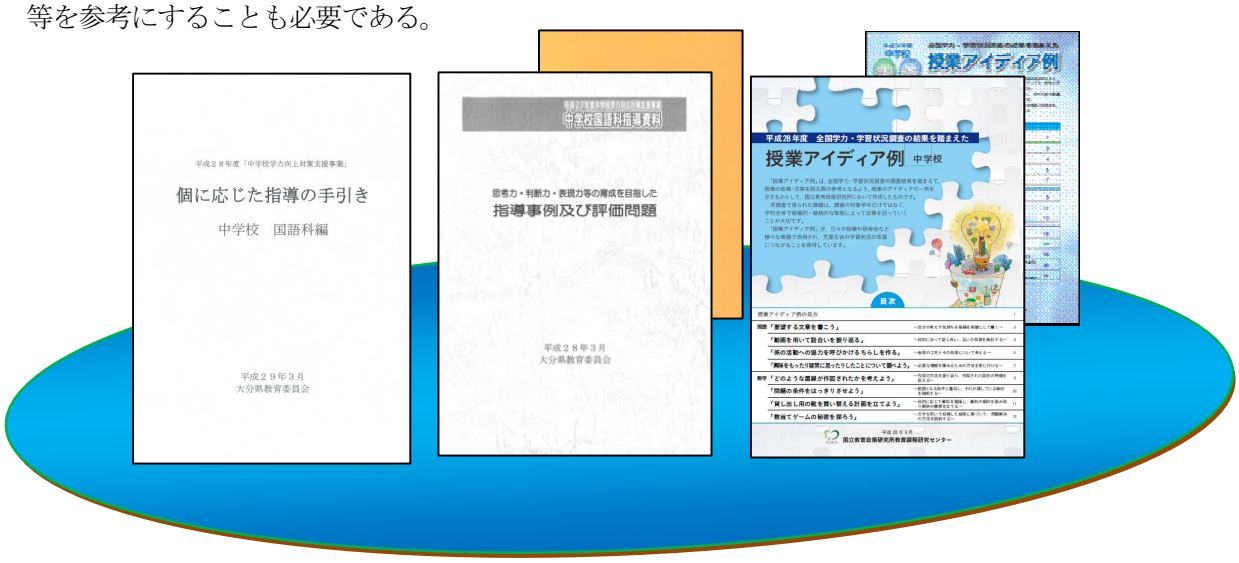
〇「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例」http://www.nier.go.jp/jugyourei/

〇中学校国語科指導資料（県教委作成）

〇個に応じた指導の手引き　中学校　国語科編」（県教委作成）

〇公立高等学校入学者選抜学力検査

等を参考にすることも必要である。



（２）国語科授業改善の方向性

新しい学習指導要領を鑑み、これまでの国語科の授業を振り返ったうえで、国語科の授業改善の方向性を以下に示す。

①適切な言語活動の設定とその充実

具体的には、以下の点に留意し、実践することが求められる。

❶付けたい力を付けるにふさわしい言語活動であるか

❷多様な図書資料等が有効に活用されているか

・目的に応じた言語の能力を身に付けさせるために、国語科の教科書だけでなく、多様な図書資料等（書籍、新聞、その他のメディアからの情報）を用いることが必要である。

種別	番号	質問事項	Ｈ２８	Ｈ２９
学校質問紙	２２	前年度に，図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか	15.8%	16.3%
	６８	国語の指導として，前年度までに，様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	91.7%	92.3%
生徒質問紙	１９	昼休みや放課後，学校が休みの日に，学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか（週１以上）	10.0%	10.4%
	４７	新聞を読んでいますか（週１以上）	17.4%	13.8%

・多様な図書資料等を活用する中で、例えば必要な情報を素早く見付ける読みや、必要な部分を詳細に分析する読みの指導が可能となる。

・また、自分の考えを深めたり広げたりするためにも学校図書館等を利活用し、多様な情報を関連づけて読むことに指導に当たることが必要である。

・学習指導要領の言語活動例を参考にし、情報を活用して、条件に応じて自分の意見や考えを表現する活動の充実を図るとともに、考えを深めたり広げたりする「交流」の場面を単元の中に効果的に位置付ける指導が求められる。

・以上のことを鑑み、生徒自ら多様な図書資料を手に取るようにするため、新聞の購読や学校図書館の整備等、学習環境の充実を図るとともに、不読者をゼロに近づける取り組みが必要である。

質問紙　「あなたはこの１か月の間に本を何冊くらい読みましたか。」（単位は%）

	0冊	1~2	3~4	5~6	7~8	9~10	11~20	21~30	31 以上	その他
県（29 年度）	15.9	38.9	20.4	9.2	4.1	4.5	3.6	1.1	1.9	0.3
県（28 年度）	21.1	38.1	18.5	8.2	3.6	3.9	3.0	1.1	2.1	0.2
県（27 年度）	17.3	39.9	19.5	8.8	4.1	3.8	3.3	1.1	1.9	0.3
県（26 年度）	17.8	38.6	19.9	9.4	3.9	3.8	3.3	1.2	2.1	0.1

この数年増加傾向であった不読者層が、今年度大幅に減少している。まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な生徒の学力を育成する基盤として、また、豊かな思考には豊かな語彙形成が不可欠であり、それを促すという視点でも、読書指導を見直すことが必要である。

・また、言語活動を取り組むために必要な新聞、事典や辞書が生徒の手に取りやすい場所に設置することも必要である。

❸既習事項（または知識・技能）を活用する言語活動であるか

❹❸のために知識・技能の確実な定着を図っているか

・今年度は、この点について改善が見られた。言語活動を行う中で、定着を図ることが重要である。

・ただし、単元の付けたい力や授業時間数から、生徒自身に考えさせたり発見させたりする点と教師自身が教える点を明確に区別し、適切な指導を行う必要がある。

❺生徒の興味関心を喚起する言語活動であるか

・興味関心を喚起する言語活動を行えば、学びに向かう力につながるその教科の学習が「好き」という気持ちが強くなってくる。

・以下の生徒質問紙の結果から、中学校での指導が子どもたちの興味関心を喚起するものになっていると言える。

種別	番号	質問事項	Ｈ１９	Ｈ２４	Ｈ２７	Ｈ２９
生徒質問紙	７１	国語の勉強は好きですか	54.0%	58.9%	60.0%	61.7%

❻発表や交流活動を設定した言語活動であるか

種別	番号	質問事項	Ｈ２８	Ｈ２９
生徒質問紙	７０	生徒の間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか	65.4%	66.7%
	７６	国語の授業で目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしていますか	61.5%	63.1%

・話し合う活動は、現在大分県の教室でよく行われている。本当に話し合いが必要であるのか、必要であるならば、どのような形式の話し合いが必要であるのか、ということを吟味した上で行うべきである。

・話し合う手段をとる際に、何の力を高めるために行うのかということを、生徒自身にも自覚させるように心がけたい。

・また、発表の際、原稿を読み上げるだけのようなものになっていないか、ということも重要な指導のポイントである。発表の原稿作りをすることも非常に有効な手段であるが、例えば、メモをもとに発表する、ということも活用する力を高める上で非常に重要である。

②生徒の主体的な学びを促す「めあて」等の設定、指導に生かすことができる「より具体的な評価規準」の設定

具体的には、以下の点に留意し、実践することが求められる。

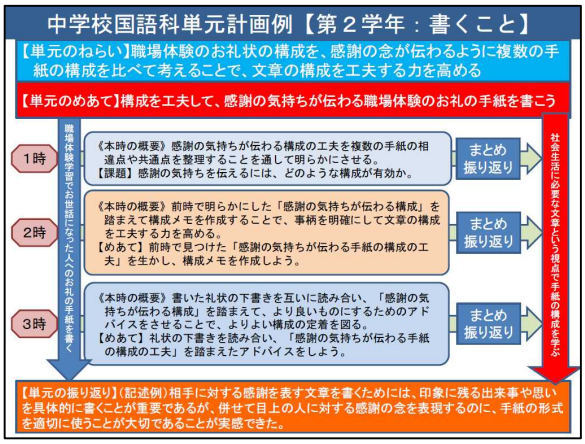
❶適切な「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定があるか

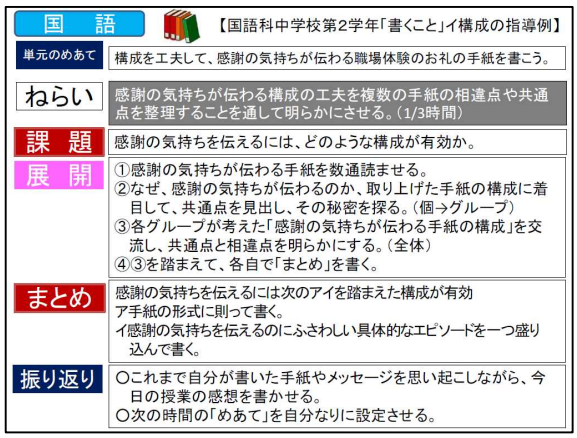
・以下の資料を参考にして、設定をすること。

「児童生徒の主体的な学びを促す『めあて』『課題』『まとめ』『振り返り』の設定例」

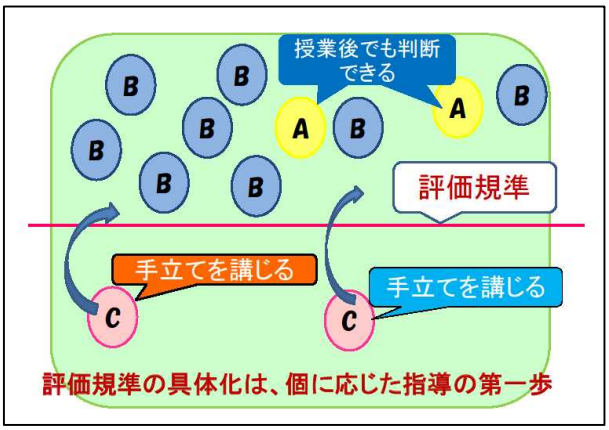
「主体的・対話的で深い学びを実現するための単元（題材、主題）計画 例」

http://kyouiku.oita-ed.jp/gimu/2017/05/291.html

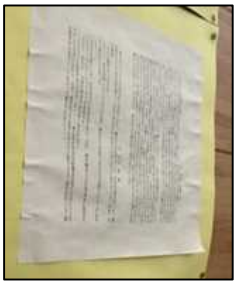




❷指導事項・指導領域・評価の焦点化が見られるか
❸単元・指導過程・本時の評価規準に整合性があるか
・単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、より具体的な評価規準（概ね満足できる状況）を設定することが求められる。
❹「おおむね満足できる」状況が具体的に想定され、それを判断する場面や方法は適切であるか
❺「C 努力を要する状況」の生徒への指導や支援は行われているか、またその方法（手段）は、有効であるか
・具体的な評価規準から本時のめあてを設定すること、また、評価規準に基づき、「C 努力を要する状況」の生徒を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。



（３）その他、国語科授業で取り組むべきこと
・必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めることが必要である。また、どのように思考するのかをきちんと理解させるためにも、例えば「要約」とはどのようなことであるのかを理解させておく必要がある。
・少なくとも、中学校で使用する教科書に掲載されている学習用語は、その学年で確実に理解させることが大切で、既習の用語は授業で使わせ、指導者があいまいな言葉を使わないようにしなければならない。小学校現場で行われているような学習用語の掲示も有効な取り組みである。
・言語活動の成果物を掲示や展示することも効果がある。作成したものを互いに見ることで、励みになるとともに、見方や考え方が豊かになる契機もなる。また、言語活動に関連する資料の紹介も学習の環境を整える意味で有効である。



・必要や目的に応じて、様々な記述をする活動をすることが求められる。記述は、「書くこと」の指導だけでなく、３領域の力を向上させるのに効果がある。
例（話す・聞く）インタビュー等の取材メモ、スピーチ原稿等
（書く）鑑賞文、図表などを用いた説明・記録、案内、意見文、批評文
（読む）文章を読んで解釈し、自分の考え（感想や意見、評価、批評等）を明確に書くこと。
目的に応じて本文を引用したり要約したりすること。
・また、「活用」に課題がある場合に求められる工夫として、条件に即応して記述しなければならない場面を設定することがある。時間・字数・文章の形態や種類・文体（常体・敬体・一人称・三人称等）・テーマ・対象・使用語彙・要約・引用・例示・技法（反復・倒置・比喩・反語等）・構成　等、条件を踏まえる必然性のある活動を設定する。

（４）学校全体で取り組むべきこと
①漢字や語句、文法、表現技法等の習得
・漢字や語句、文法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。
②全校一斉読書や各教科における学校図書館の活用
・様々な力を下支えするものとして、活字に親しむことが必要である。その際、文学的文章だけでなく科学的な読み物等にも手を伸ばすように指導する必要がある。
・また、学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することも求められる。そのために、国語科だけでなく、各教科や領域において、図書館の利活用

の推進をしなければならない。

読書時間の確保のための工夫の例 ①読書活動とプリント学習を連続して行う。 ・７：５５～８：１０　読書（生徒は登校後、すぐに読書を開始する） ・８：１０～８：２５　各教科の補充プリント という時間で取り組む。これにより、生徒は最低１５分間の読書を行うことになる。 ②読書を行う曜日を固定しない。 朝の学習時間のうち、週数日を読書に充てる。ただし、読書をする曜日は固定せずに、考査等の計画を考慮しながら、読書を多く行う週とプリント学習を多く行う週とを設定する。 ③生徒会活動と連動する。 生徒会（図書委員会）の主導で、昼休みに学年全体で読書をする時間帯を設定する。 ④朝読書ではなく、昼休みと五限の間に読書時間を設定する。

（６）地域や学校で取り組むべきこと

①全国学力学習状況調査についての研修会

・教科担任等が、全国調査の結果分析を行うことはもちろんであるが、これを今後の指導の充実に資するものにするために、学校や地域全体で、情報を共有し、指導改善のベクトルを揃えることが重要である。そこで以下のような研修会を、学校や地域で開くことが必要になってくる。

（研修の例）

❶調査結果を受け、学校や地域において、正答率が低い問題や無解答率が高い問題を参加者全員で解く。

❷「解説資料」「調査結果資料」中にある問題についての解説や解答類型等を読む。

❸上記❶❷から、何が指導の重点になるのかを協議する。

②自校採点や各地域での採点

・上記①の研修をより効果的なものにするために、正式な結果を待つのではなく自校や各地域で採点を行うことも一考すべきである。採点することで、一人一人の定着状況を把握・分析し、個に応じた指導に生かすことができ、授業改善 が促進されるという利点がある。

・また、採点を通して、学習指導要領を踏まえた学習内容や、国がどのような学力を求めているのかを改めて知ることができる。

・自校や地域で採点をするとき、特に留意すべきなのが、一部の人間のみで行わないということである。自校や地域の課題を知るには、対象学年の担任や教科担任だけでなく、基本的に全員で行うことが不可欠である。